

# せたがやの文化財

No.030

## INDEX

- ◎国登録有形文化財に登録／國士館大講堂………1  
五島美術館（古経樓他）……………2-3
- ◎文化財事業報告／歴史文化物語・  
井伊家講演会……………4-5
- ◎創造塾／清水邸活用事業……………6
- ◎その他各種事業……………7-8

## 国登録有形文化財に登録されました

平成 29 年 10 月 27 日に区内にある 4 棟の歴史的建造物が国の登録有形文化財に登録されました。



昭和 4 年頃大講堂 提供：学校法人國士館



國士館大講堂 正面外観

提供：学校法人國士館



國士館大講堂内部

提供：株式会社建文



大正 8 年 11 月 9 日

國士館落成式及び開学式

提供：学校法人國士館

## 國士館大講堂

國士館は大正 6 年(1917)11 月 4 日に麻布区筈町(現在の港区南青山 7 丁目)に、「活学」を講ずる道場として、夜学の私塾を創立したことにはじまります。大正 8 年(1919)1 月には現在地である荏原郡世田谷村に約 5,000 坪の土地を借り、同年 11 月に移転しました。世田谷への移転は、創立の理念を発展させて本格的な学校経営を開始するために行われ、吉田松陰をはじめとする明治維新の志士たちが眠る松陰神社の近隣である本地こそ、國士館の教育理念にふさわしい歴史的由緒がある場所と考えたようです。移転に際しては講堂、本部棟、寄宿舎、道場の 4 棟が建てられました。大正 8 年(1919)1 月末には設計もおおむね完成し、4 棟同時に工事着手され、同年 7 月 27 日には上棟式が行われています。同年 11 月

9 日には落成式並びに開館式が挙行されました。

講堂は、洋館が競つて建造される時代に、社寺建築にみるような伝統的な日本建築を選択して、國士館の教育理念を象徴的に表現したと考えられます。当初は教室として使用されたほか、様々な式典や講演会場として利用され、また関東大震災では被災者を多く受け入れたという記録も残っています。創立当初の 4 棟の建物は取り壊しや戦災などにより失われ、講堂だけが唯一現存しています。現在は「大講堂」と呼ばれ、現代的な校舎が並ぶ世田谷キャンパスの中央で、國士館のシンボルとして威風堂々と構えています。

## 公益財団法人 五島美術館

世田谷区上野毛にある公益財団法人五島美術館のある土地は、明治期にハワイ国の駐日公使別邸として構えられて以降、政治家・田健治郎（1855～1930）邸、東急電鉄の創業者・五島慶太（1882～1959）邸と所有者を変え、五島が逝去した翌年の昭和35年（1960）には五島美術館として開館しました。

### 古経樓

古経樓は田邸時代の明治39年（1906）に、庭園内に建てられた「茶寮」を前身建物としています。大正10年（1921）に多摩川河川敷で行われた陸軍特別大演習では東宮裕仁親王（後の昭和天皇）が田邸に宿泊することになり、これを機に邸宅は大規模な模様替えを行いました。「茶寮」は敷地内で曳家され、大改修が施されました。当初は家族のための建物でしたが皇族など身分の高い賓客をもてなす施設として整えられました。広間の天井を折上げ天井に変更して書院造りの格式としつつ、「茶寮」時代の数寄屋風書院の特徴も持ち合わせた室内意匠になっています。

昭和15年（1940）には「茶寮」の西側に茶室「松



古経樓 外観 撮影：清水襄



古経樓 広間 撮影：清水襄

じゅあん  
壽庵」を造りました。「松壽庵」は給仕口前に隅板を付ける四畳台目で小堀遠州好みの高台寺の旧小方丈茶室を写したもので、「古経樓」という名は、五島慶太の雅号であり、五島逝去の翌年、昭和35年に五島美術館が開館した頃に、この建物を「古経樓」と呼称するようになりました。

### 富士見亭

富士見亭は木造平家建ての和風建築で、昭和32年（1957）、五島慶太が最晩年に自邸庭園内につくらせた茶室です。屋根は起りの付いた緩勾配の入母屋造りで、南面に千鳥破風を付けています。特徴は南側に大きくあけられた窓で、幅が15尺5寸（約4m70cm）あり、国分寺崖線を利用した緑の庭の向こうに富士山が見えたといいます。正面の入口に掲げられた「富士見亭 慶太書」の扁額は五島慶太の揮毫です。

内部は畳敷きと土間を併用し、可動式の客卓を用いる立札席で座札にも対応できるよう計画され、茶の湯の伝統を尊重しつつも近代化を志向する五島慶太の考え方を示した作品です。



松壽庵外観 撮影：清水襄



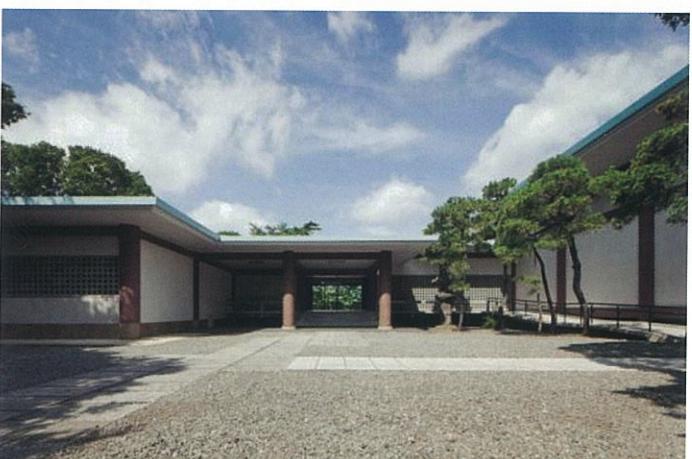
松壽庵内部  
撮影：清水襄



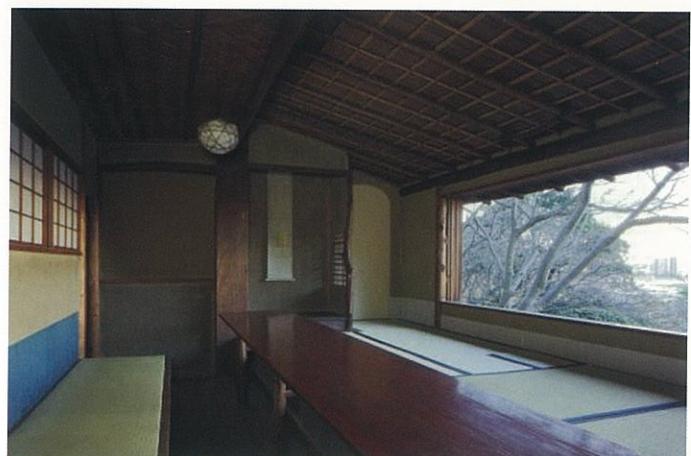
富士見亭正面外観 撮影：清水襄

### 【本館】

五島美術館本館は建築家の吉田五十八（1894～1974）の設計で、五島慶太の喜寿を記念して昭和35年（1960）4月に竣工しました。構造は鉄筋コンクリート造平屋建てで、一部に2階と地下室が設けられています。戦後吉田五十八は、鉄筋コンクリート造を用いた伝統表現に取り組み、「本館」はその最初期の作品の一つで、平安時代の貴族住宅・寝殿造りをモチーフにしたものです。幅広の廻り縁を張り出して深い軒とともに外観の水平線を強調しています。古代建築風の太い丸柱を配し、柱間一杯に設けられた開口部にはアルミパイプ製の「御簾」やコンクリート製の「蔀戸」をイメージした格子窓を用いています。建物の随所に有職文様を用いている点も特徴で、エントランス・ホールの床仕上げに「能衣装の三重襷文様」を、天井照明の嵌込みガラスに「朽木文様」をあしらっています。



本館正面入口 photo by Shigeo Ogawa



富士見亭内部 撮影：清水襄



富士見亭 床の間 撮影：清水襄



本館 展示室より外を眺める photo by Shigeo Ogawa

## せたがや歴史文化物語—ワークショップの実施—

区内には歴史や文化を伝える様々な文化財があります。これまで、文化財そのものだけで保存・活用されることが少なくありませんでした。しかし、文化財の価値や魅力は、まわりの環境や関連する文化財と切り離すことはできません。そこで、文化財の周辺環境や関連の文化財を含めて、ストーリーを作ることで、文化財の価値をわかりやすく発信して

いくため「せたがや歴史文化物語」の取り組みを行うこととしています。

区民の皆様にご参加いただき、せたがや歴史文化物語としてどのようなテーマが考えられるか、2日間に渡り、まち歩き及びワークショップを行い、「無くなった地名の物語」や「インスタ映えスポット」など、さまざまなアイデアが出されました。

### 1. まち歩き

実施日：平成 29 年 9 月 16 日

参加者：24 名

ルート：代官屋敷—旧山田家住宅（写真右）—次大夫堀公園民家園—喜多見氷川神社—慶元寺—野毛大塚古墳—豪徳寺



### 2. ワークショップ

実施日：平成 29 年 9 月 30 日

参加者：19 名

場 所：郷土資料館集会室

## 講演会「歴代藩主の素顔—彦根藩主井伊家の歴史」と井伊家墓所見学

### 1 講演会「歴代藩主の素顔—彦根藩主井伊家の歴史—」

彦根市教育委員会事務局歴史民俗資料室長であり、現在の井伊家 18 代当主である井伊岳夫氏をお招きして、井伊家の歴史についてご講演いただきました。

日 時：平成 29 年 7 月 2 日

場 所：国士館大学メイプルセンチュリーホール  
1 階大教室

講 師：井伊岳夫氏

参加者：282 人



### 2 豪徳寺井伊家墓所 現地見学会

豪徳寺にある彦根藩主井伊家墓所で、彦根藩の歴史と井伊家と世田谷のつながりについて現地解説を行いました。

日 時：平成 29 年 7 月 2 日

場 所：豪徳寺（国指定史跡 彦根藩主井伊家墓所）

## 特別公開 豪徳寺仏殿と仏殿像 ー黄檗派がもたらした新しい波ー

豪徳寺は、彦根藩主井伊家の菩提寺として、2代藩主井伊直孝の長女掃雲院によって伽藍が整備されました。掃雲院は、黄檗派の影響を受けていた僧侶との交流が深かったことから、豪徳寺の仏殿と仏殿像は、黄檗派の様式を色濃く伝えるものとなっています。このような黄檗派の建築や美術品は都内でも貴重な作例の一つです。



豪徳寺仏殿外部



豪徳寺仏殿内部

開催：平成 29 年 11 月 19 日（日）

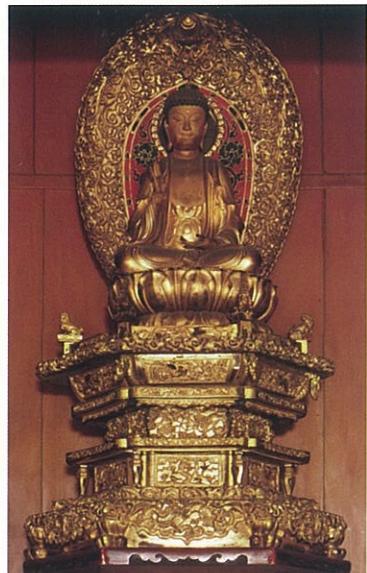
午前の部：①午前 9 時 30 分～午前 11 時

午後の部：②午前 12 時 30 分～午後 2 時

③午後 2 時 30 分～午後 4 時

会場：豪徳寺 豪徳寺仏殿

今回の特別公開では、建築史家の稻葉和也氏と、女子美術大学教授の稻木吉一氏を迎えて、豪徳寺仏殿と仏殿像についてその特徴や見どころについてご講義をしていただきました。通常非公開ということもあり、多くの方が参加され世田谷区の身近な文化財を見直すきっかけとなったようです。



釈迦如来坐像

## 川崎市との連携事業 「地名散歩 世田谷区の街の移り変わりと地名」

平成 26 年に締結した「川崎市と世田谷区との連携・協力に関する包括協定」に基づき、川崎市との連携事業「地名散歩 世田谷区の街の移り変わりと地名」を実施しました。

座学 1 回と現地散策 3 回を行い、延べ 100 人の方にご参加いただきました。

実施日：平成 29 年 10 月 8 日（日）・14 日（土）・28 日（土）・11 月 5 日（日）

場 所：◎ 座 学

(第 1 回) 「世田谷区の街の移り変わりと地名」

◎ 現地散策

(第 2 回) 「成城の住宅街と喜多見の歴史」  
(成城学園前駅～喜多見駅)

(第 3 回) 「中世・近世の世田谷の歴史を辿る」

(松陰神社境内～世田谷区立郷土資料館)

(第 4 回) 「国分寺崖線沿いの古墳と景観の移り変わり」(二子玉川駅～等々力駅)



等々力渓谷

## 平成 29 年度せたがや文化創造塾

毎年ご好評をいただいているせたがや文化創造塾では、文化財保護審議会委員の先生等を迎えて、講座編 7 講座に加え、現地見学編 1 講座を開講しました。

講義編は、特異な形状の石器である石棒を用いた縄文時代の祭祀に関するもの（下表 1）、幕末の世田谷を当時の彦根藩と幕府領の「御用留」から窺うもの（下表 3）、野毛大塚古墳をはじめ弥生時代・古墳時代の墓から出土しているガラス製品について古代日本とアジアの交流をガラス製品から紐解く話（下表 5）などをご講演いただきました。

また、現地見学編では、戦後の復旧工事で改変されている法務省旧本館の復原に携わった講師に、法務省旧本館の見学会（下表 8）をしていただきました。見学会では通常見られない場所も見学し、復原

### 【講座一覧】

	番号	日にち	講座名	講師	講師名称	受講者数
講義編	1	9月2日(土)	縄文時代の祭り -石棒祭祀-	山本 晖久	昭和女子大学名誉教授	54
	2	9月2日(土)	茶の湯の書 -桃山茶人が好んだ墨跡	竹内 順一	東京藝術大学名誉教授	75
	3	9月3日(日)	幕藩体制の解体と世田谷 -上野毛村と太子堂村の御用留から-	森 安彦	国文学研究資料館名誉教授	86
	4	9月4日(月)	被災地のボランティアが協働で創る 「栄村文化歴史館」	石野 律子	神奈川大学日本常民文化研究所 客員研究員	16
	5	9月9日(土)	ガラスから見る古代日本とアジアの交流	小寺 智津子	国士館大学文学部・21世紀アジア 学部非常勤講師(考古学)	50
	6	9月10日(日)	日本の仏教の時代様式	星山 晋也	早稲田大学名誉教授(美術史)	91
	7	9月10日(日)	往来物とそのパロディ -『小野篁歌字尽』を中心に	神林 尚子	鶴見大学文学部講師	54
現地 見学編	8	9月5日(火)	法務省旧本館(重文)の復原秘話	堀内 正昭	昭和女子大学大学院教授	35

## 旧清水邸書院活用事業

### 1 呈茶サービス

区登録有形文化財「旧清水邸書院」（区立二子玉川公園帰真園内 玉川 1-26）において呈茶サービスを行いました。伝統的な家屋の縁側で庭園をながめながら風情のある憩いのひとときをすごしていました。

開催：平成 29 年 4 月 23 日(日)、6 月 4 日(日)、10 月 22 日(日)、11 月 20 日(日)



### 2 伝統の香「- 香りを楽しむひな祭り -」

ひな祭りの日に「旧清水邸書院」で雛人形の展示しました。合わせて、数種類の香木の香りを聞き分ける簡単な聞香体験やはまぐりを使った貝合せ、折り紙で匂い袋を作成する等もワークショップも行いました。多くの方が日本伝統の香の文化に親しみ、「和」の文化

に触れ楽しくなりました。

開催：平成 30 年 3 月 3 日(土)



## 区指定有形文化財 「旧山田家住宅」一般公開

平成 28 年度に耐震補強及び修理をしていた区指定有形文化財「旧山田家住宅」が工事を終え、平成 29 年 5 月 2 日から一般公開しました。

屋内では、旧山田家住宅の概要等に関する展示を行っています。また、旧山田家住宅の歴史や特徴を伝える映像、成城の街の成り立ちやみつ池に関する映像を見ることができます。

喫茶コーナーも併設し、文化財の中で憩いの場として利用出来ます。是非お立ち寄りください。

**場所：**世田谷区成城 4-20-25

**開演時間：**午前

9 時 30 分から午

後 4 時 30 分まで

**休園日：**毎週

月曜日（ただし、

月曜日が祝日の

場合は次の平

日）、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）



## 第 12 回 世田谷区遺跡調査・研究発表会

**開催：**平成 29 年 11 月 23 日（木）

**会場：**教育センター 参加者：38 名

**内容①講演「炭素 14 年代からみた縄紋文化」**

中央大学文学部教授の小林謙一氏に、炭素 14 年代を利用した縄紋社会研究の新しい視点について講演いただきました。

**②調査報告**

- ・平成 29 年度遺跡調査の概要
- ・田直遺跡第 1 次調査



## 第 10 回 野毛古墳まつり

**開催：**平成 29 年 10 月 15 日（日）

今回も野毛町会をはじめ、社会福祉協議会、上野毛まちゼン、等々力商店街、野毛青少年交流センター、昭和女子大学、紙風景、古墳にコーフン協会など多くの団体にご参加いただきました。

当日はあいにくの雨となりましたが、前方部のステージでは、2 回目の登場となる歌手で、古墳研究家のまりこふん氏のトークショーとライブを行い、会場は大いに盛り上がりました。また、古墳散策には 20 人の参加があり、野毛古墳群の魅力に触れた参加者は大変満足されていました。



## 郷土歴史文化特別授業

区内で出土した土器や石器などを小学校に運搬し、当時の人の暮らしなどについて、6 年生を対象に、学芸員が出前授業を行いました（11 校）。また、野毛大塚公園等において、古墳等について学芸員が出前授業を行いました（2 校）。

さらに、学校内に周辺地域で出土した土器やパネルを 3 週間ほど展示し、児童や保護者等に郷土「せたがや」の歴史を知っていただきました（4 校）。（5・6・7 月実施）



■区立次大夫堀公園民家園企画展

回想・岡本公園民家園—「民家」を遺す試み

平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 1 月 1 日

戦後、生活環境の変化により古民家が減少していく中、文化財として保存が講じられてきたのは豪農や商家など主として格式のある建物を中心でした。その後、文化財保護制度に基づき各自治体や博物館で古民家を移築・復原する取り組みが始まるとふたたび古民家に注目が集まりました。

本企画展では、民家保存や研究を振り返りながら、岡本公園に復原された区指定文化財第一号・旧長崎家住宅の保存の意義について紹介しました。

収蔵資料展

茅葺きの道具

平成 29 年 5 月 20 日～10 月 20 日

かつて世田谷の農家では建物の屋根を茅やススキ、麦藁などで葺いていました。次大夫堀公園内の古民家もすべて茅葺き屋根となっています。本年実施している旧安藤家住宅主屋の屋根工事に合わせて、茅葺き屋根をつくる道具を集めて展覧会を開催しました。

■岡本公園民家園企画展

岡本の記憶をたどる 岡本と東京緑地計画

平成 29 年 7 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

岡本に隣接する砧公園は、昭和 14 年に策定された東京緑地計画に基づき設置された都市公園です。都市近郊の農村地帯であった岡本では、公園の出現に伴って地区の改変や家屋の移動が行われ、旧来の生活に変化をもたらしました。東京と近郊に焦点を当て、戦前戦後の岡本の記憶をたどる展示を行いました。



■区立郷土資料館特別展

地図で見る世田谷

平成 29 年 10 月 28 日～12 月 3 日

本展覧会は、世田谷の近代以降の時代変遷を地図によって捉え直そうとする企画です。地形図はじめ都市図、商工地図、観光沿線案内図および水道や農産物の分布といったテーマごとの地図を紹介しました。来館された方からは「世田谷の地図をいろいろ調べているが、初めて見るものばかりで大変楽しかった」とか、「時代の移り変わりが分かり勉強になった」などの感想をお寄せ頂きました。



ミニ展示

夏休み企画 お米ができるまで

7 月 25 日～8 月 31 日

かつての世田谷でどのように米作りをしていたか、実際に使われていた農具を展示。



世田谷ゆかりの近世画人 井伊家の画人・佐竹永海

12 月 12 日～平成 30 年 1 月 28 日

幕末期に彦根藩の御用絵師を勤め、大場代官屋敷内書院の襖絵も描いた佐竹永海の絵画を展示。

編集・発行 世田谷区教育委員会事務局  
生涯学習・地域学校連携課文化財係

〒154-8504 世田谷区世田谷 4-21-27  
Tel 03-5432-2726 Fax 03-5432-3039  
<http://www.city.setagaya.lg.jp>

発行日 平成 30 年 3 月 31 日

再生紙を使用しています